

本人の好きなこと・続けたい活動 から地域のつながりを考える

令和8年度 認知症セミナー

- ▶ 令和8年7月28日(火)
- ▶ 山口県周南市周南東部地域包括支援センター

認知症地域支援推進員 内藤 亜也子 高松 信子

<周南市の概況>

- ▶ 総人口 132,173 人(令和8年3月末現在)
- ▶ 65歳以上 44,999 人
(うち、75歳以上: 27,424 人)
- ▶ 高齢化率 34.0 %
- ▶ 要支援・介護認定率 15.4 %

(出典:周南市統計情報, 厚生労働省・介護保険事業状況報告)

周南市の認知症施策推進の体制

▶ 市内に5か所の地域包括支援センター

全て市からの委託による運営

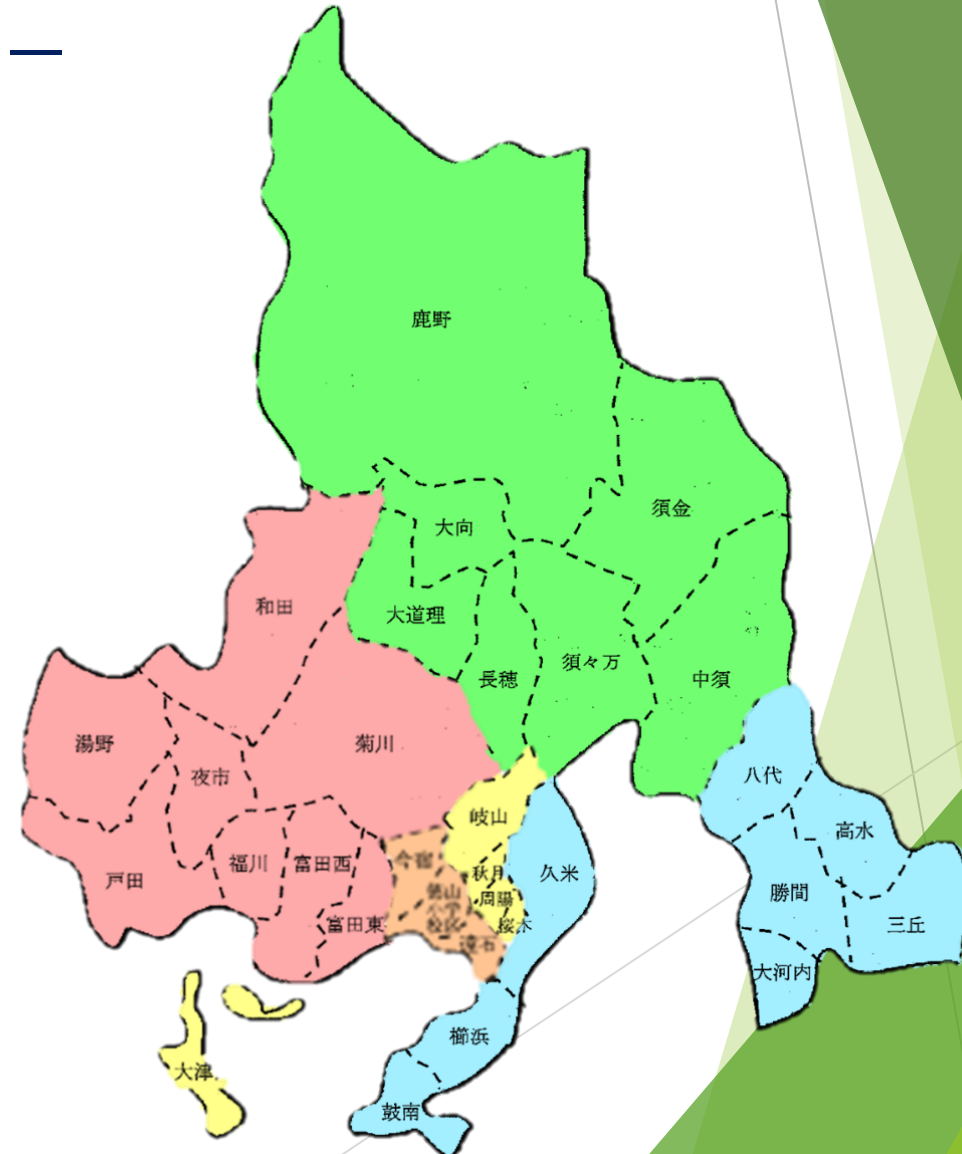
- 周南東部地域包括支援センター
- つづみ園地域包括支援センター
- 徳山医師会地域包括支援センター
- 周南西部地域包括支援センター
- 周南北部地域包括支援センター

※全て委託による運営(直営なし)

▶ 認知症地域支援推進員の配置

市役所と

全ての地域包括支援センターへ
配置 (R8 計11名)



1.活動経緯・目的

●活動経緯

地域包括支援センターに配置する「認知症地域支援推進員」の立場で、活動範囲を広げたいと思っていました。県主催のセミナーをきっかけに、本人主体の活動への取り組みを行いました。

●目的

「認知症地域支援推進員」の取り組みとして、認知症施策や日々の相談業務を行う中、担当エリア内でどんな取り組みが出来そうか迷っていた…

「こんなことがやりたい」

という本人の思いに耳を傾け

寄り添ってみることで、地域の仕組みづくりが出来るのではないかと考えた。

続けたい！！



【対象事例】

- ▶ Aさん 82歳 女性
- ▶ 一人暮らし➡長女家族4人暮らし
- ▶ くも膜下出血の発症後、他県より周南市長女宅へ転居する
- ▶ 孫娘が、里帰り出産を控えていた
- ▶ R6年9月に「軽度認知障害」の診断を受ける
- ▶ 好きな活動：卓球、体操、草花の水やり

様々なケースの思いを聴くうちに、、、
本人と家族に、思いの「差」がある方に
耳を傾けてみることにした。

【長女から地域包括支援センターへ相談】

▶ きっかけは⇒「デイサービスに行かせたい」と長女からの電話相談

▶ 初回訪問時：長女の思い

「市民センターの活動に参加するのはいいけど、
道が狭く、小中学生の通学路で人の往来が多い。」

「一人で行かせて、事故に遭わないか心配。」

「デイサービスのように送り迎えがあると安心。」

市民センターへは、私が送っていける時は連れていくけど・・・」

長女は本人が一人で移動することに不安を抱えていた。

本人の声に耳を傾けると、、、、

本人と家族に、思いの「差」を感じた。

本人の思い

- ・「体操や卓球を行うために市民センターまで歩いていきたい。歩いていけるけど、娘に心配かけるから・・・」
- ・「一人でも大丈夫なんだけど・・・」と思っている本人の気持ち

この「差」を埋めることはできないか？

家族(長女)の思い

- ・「一人で行かせたら、周りに迷惑をかけるのでは」という家族の心配な気持ちがある

2. 本人の気持ちを支援するために目指したこと

- ▶ 1) 市民センターに一緒にいてくれる仲間ができる
- ▶ 2) 介護保険サービス以外にも、自分のやりたい活動に参加することで、社会参加の機会を保つ
- ▶ 3) 地域活動や自宅での役割を継続することで、認知機能の低下を予防し、彩りのある在宅生活を送る



本人の活動状況

1日の過ごし方、好きなこと、
続けたい活動や内容・頻度、
介護サービスの内容・頻度等

本人の好きな活動に対する思い

活動の取り組み状況、取り組みの仲間、
仲間同士の支え合いの有無・内容、
活動を通じた家族への思いなど

家族の思い

本人の活動継続に対する思い
(理解や不安など)

3.本人の声に耳を傾ける(結果や学び)

本人の思い

- ・好きなこと、続けたい活動を意識した関り
- ・長女の送迎時のみ市民センター卓球・体操活動に参加していた。
- ・近所の方の車に同乗し市民センターの活動に参加できるようになった。

家族の思い

- ・本人を支える家族の思いも尊重
- ・「都合が合えば送迎するけど、私がいけない時は休んで欲しい」と本音の部分
- ・「最近は、私が知ってる人が一緒に乗せて行ってくれているみたいで私も安心」

地域の支え 合い

- ・市民センターまでの移動を支援する仲間づくりを模索後、地域の方同士で助け合っている様子が分かった。
- ・Aさんに寄り添い関わったことで、地域に、住民同士の支え合いが出来ていることが分かった。

・本人の「**思い**」に**耳を傾け**、家族に伝える

➡ 家族の協力も得られた。

・近隣者の都合が合う時、車に同乗させてくれる仲間ができた。

➡ 市民センターの活動が継続

・帰り道、会話を楽しみながら、一緒にスーパーまで歩く仲間もでき、歩く姿勢もよい。

➡ **表情がいきいき**

**本人の思い
周りの変化**

・本人の**思い**を代弁する
状況を伝える

➡ **家族の理解を促し、
ご本人の持てる力、
可能性を引き出すことが
できる。**

家族の思い

・専門職として
本人の「**思い**」に耳を傾ける

➡ 地域とのつながりをもつ

**地域包括支
援センター**

・地域と関わる

➡ 地域にある支え合いの
力や課題解決の
きっかけ(種)を
見つけることができる。

**地域の
支え合い**

4.これから、注力していきたいこと

- ▶ 移動支援の担い手が、ご近所の方おひとりに負担がかかっていた。
- ▶ 認知症への理解のある担い手を増やすために、卓球・体操グループの参加者などへ働きかけ、**チームオレンジの構築につなげたい**と活動した。

→地域の支え合いの力や解決できるきっかけ(種)が、身近な地域にたくさんあるのではないかと気づき、活動の目標にしました。

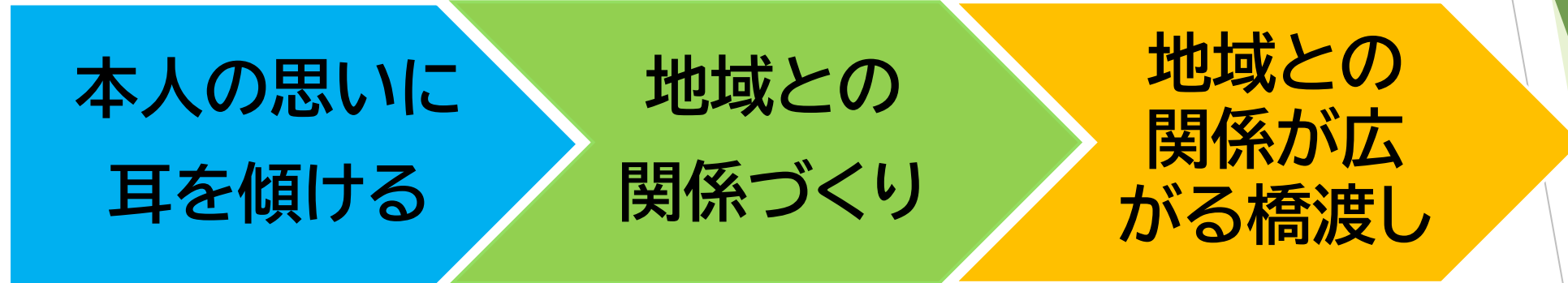


「本人が住み慣れた地域で

自分らしく暮らし続けられる地域づくり」

5.地域包括支援センターが目指す支援・寄り添い (まとめ)

地域包括支援センター(認知症地域支援推進員)として目指すところ



(ステップ1)

- ・空白の時間を大切に考え、本人の思いに耳を傾ける
- ・本人が本当にやりたいことや望む暮らしを見出す支援を目指す

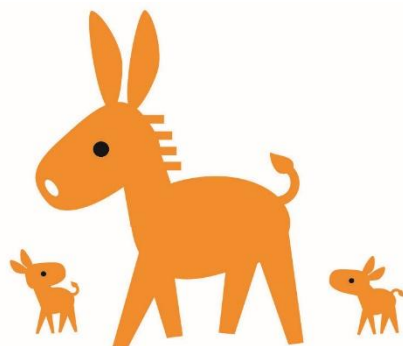
(ステップ2)

- ・地域にある支え合いの力や解決できるきっかけ(種)を見つける
- ・本人が住み慣れた地域で、本人を中心とした支え合いの地域づくりを目指す

(ステップ3)

- ・地域での活動へとつなげることで、ご本人の活動範囲を広げる
- ・人とのつながりや地域との関係が広がるような橋渡し役を担う

認知症になっても、 自分らしく暮らせる周南市 をめざして



ご清聴ありがとうございました。